

3つの設計方針

- 『迅速な出動』と『実践的な訓練』を実現する防災拠点
- 『環境親和型のZEB Ready庁舎』と『健康で快適な環境』の実現
- 市民の防災力を育む、庁舎内外に展開する『防災アミューズメント』



○プロジェクト概要

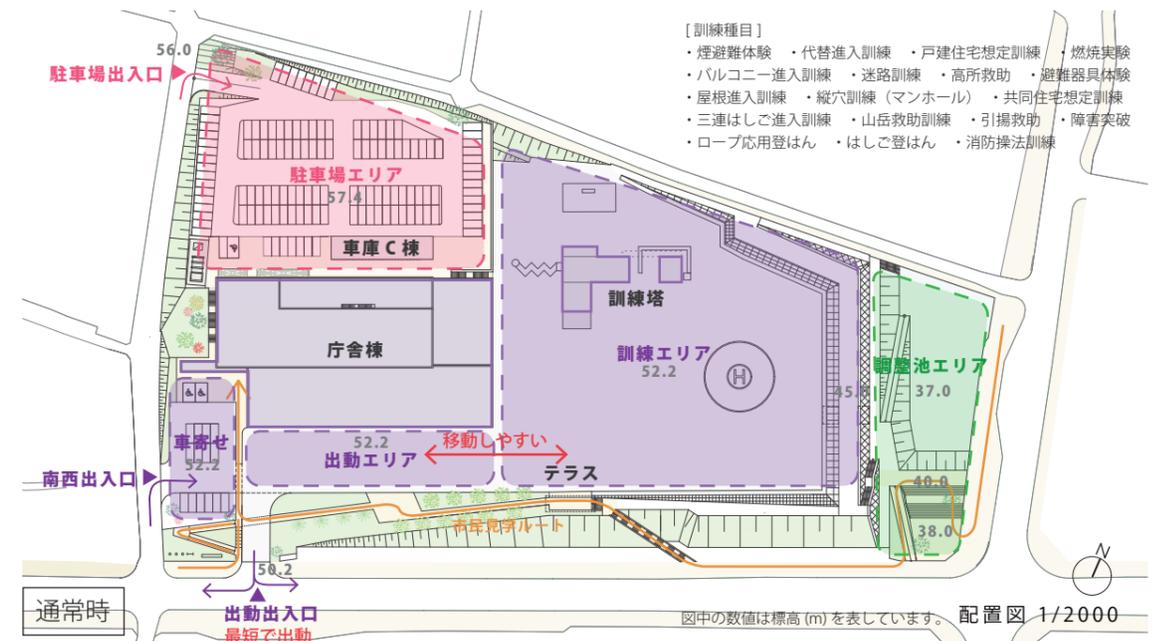
近年の大型台風や多発する集中豪雨への対応、また、南海トラフ地震などの大規模災害への備え、さらには広域連携など、消防に求められている役割は年々高度化・複雑化しています。

新しい消防庁舎はあらゆる災害に対して迅速に対応できる消防力の充実に加え、市民の日常的な防災教育や体験を通じて、消防と市民の防災意識の共有が重要であると考えます。

市民の生命や財産を守るための日々の活動を身近に感じてもらうことで、地域の防災力を高める磐田市の新しい防災拠点をつくります。

○ゾーニング計画

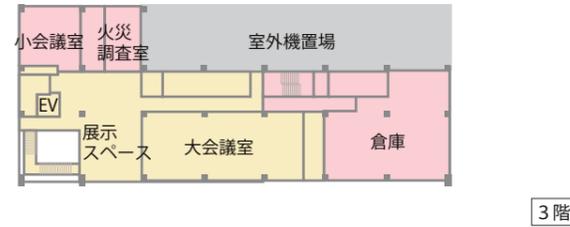
- (1)『迅速な出動』のための土地利用計画
主要道路となる南側道路と高低差の少ない高さで庁舎を配置し、最短でスムーズな出動に配慮した計画とします。また、迅速かつ安全に出動ができるよう、一般車両とは動線を分け、消防専用の出動出入口を設けます。
- (2)『訓練エリア』と車庫を同じレベルに配置
『訓練エリア』を車庫と同じ造成面に配置し、消防車両の移動を容易にするとともに、訓練時の出動要請にも迅速に対応できる計画とします。
- (3)『駐車場エリア』を北側にまとめて配置
来庁者・職員の駐車場は北側にまとめ、出動動線と交差しない計画とします。集約した大規模な駐車場エリアは、大規模災害時の受援にも対応できます。また、南西側に車寄せを設け、市民が気軽に立ち寄れる計画とします。



○平面計画

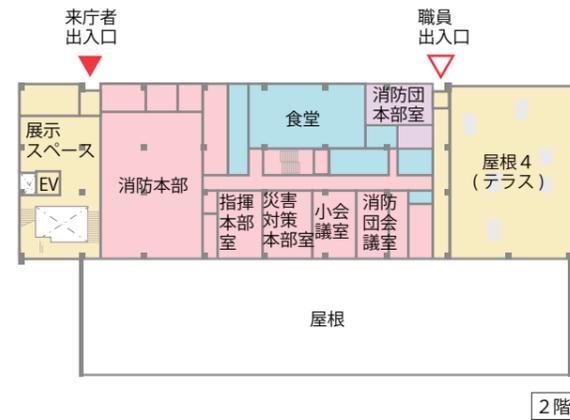
(1) 緊急時に出勤が迅速に行える庁舎

- 迅速な出勤を可能とする、車庫棟と出勤準備室を隣接させ、消防署部門を近接した配置とします。
- 車庫A・Bには消防車両13台の駐車スペースを確保します。
- 生活エリアは、出勤準備室と近接し出勤しやすい配置とします。



(2) "みる・触れる・体験する" 開かれた市民エリア

- 市民が防災や消防活動へ関心を持てるよう、庁舎内を巡る見学ルートをつくります。
- ロビーには様々な展示が可能なスペースを確保し、防災・災害の情報発信、更に市民の憩いの場としても機能します。
- 見学ルート上には、働く環境を見せる展示として、消防車の見学しやすい通路、訓練塔での訓練を見学できるテラス、執務室の一部ガラス化による消防職員の働く環境など、子供たちなど市民が楽しめる仕組みをつくります。

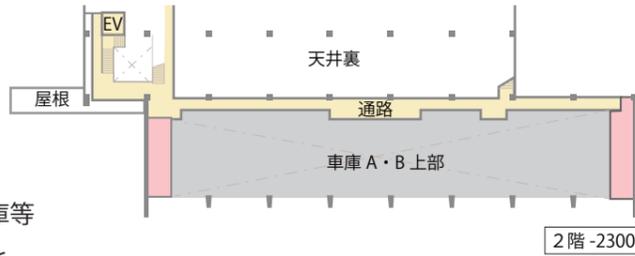


(3) 大規模災害時に連携の取りやすい災害対策エリア

- 2階に指揮本部室・災害対策本部室・小会議室・消防団会議室を隣接配置し、災害時に機能連携しやすい配置とします。

(4) 大人数での会議が可能な3階エリア

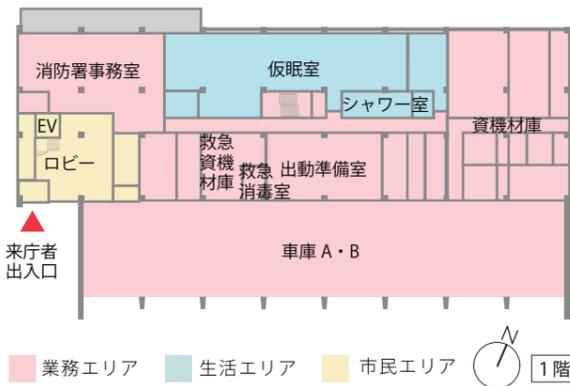
- 3階に最大で約150名収容可能な会議室を計画します。



○環境対策・ランニングコスト

(1) ZEB Ready 環境親和型庁舎

- 北側・西側の1階は地盤に接し、南側・東側は車庫・倉庫等に囲われた計画とすることで、外部からの熱負荷の抑制と、敷地高低差を活かした計画とします。
- 2階、3階の外壁は開口部を最小限とし、南側は彫りの深い立面とすることで日射しを遮ります。
- 標準的な省エネ手法や高効率機器等をバランスよく組み合わせZEB Readyを達成、磐田市で2例目のZEB庁舎となります。



(2) ランニングコスト削減の工夫

- 日射や外気温の影響を受けやすいゾーンを吹抜けとし空調負荷を低減します。高断熱で空調の効きやすい庁舎とし、ランニングコストを削減します。

○施設概要

所在地	静岡県磐田市大久保 字芽荒 10-10 外 20 筆	構造方式	鉄筋コンクリート造 +一部鉄骨造	給水方式	受水槽加圧給水方式
敷地面積	24653.77 m ²	階数	庁舎3階、訓練塔6階	受水槽設備	19700L
建築面積	3137.88 m ²	非常用発電器	ディーゼルエンジン発電機 300kVA 9000L (軽油)	自家給油設備	20000L(ガソリン) 10000L(軽油)
延床面積	5733.40 m ²			昇降機	24人乗りストレッチャー対応

○工程表

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
基本設計	実施設計	造成工事	建築工事		供用開始

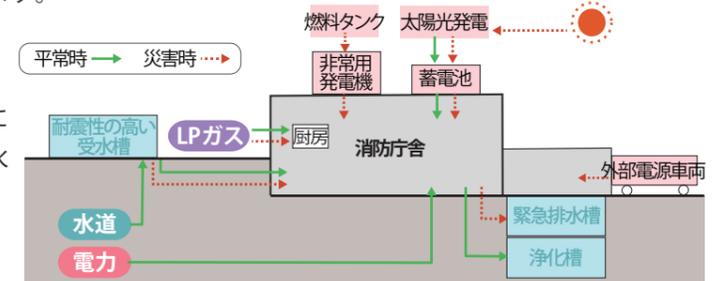
○防災計画

(1) 大規模災害時にも円滑に業務継続できる防災庁舎の計画

- 消防庁舎は、大規模災害時の業務継続機能が求められます。庁舎は耐震構造とし、耐震壁を多く配置して、高耐震化を図ります。また、インフラのバックアップにより、機能維持を行います。
- 大地震に対して建物の持つべき安全性を確保するため、「静岡県 建築構造設計指針・同解説」を基に、静岡県地震地域係数 $Z_s=1.2$ および用途係数 $I=1.25$ を考慮した強固な構造体を構築し、震度6強に対して建物が崩壊・倒壊しない設計とします。

(2) 電力・空調は発電機回路によりバックアップ

- 災害時に重要な諸室（災害対策本部室・指揮本部室・消防本部及び消防署事務室等）の空調は、災害時においても発電機回路で供給し、災害活動をバックアップします。また、これらの各諸室は停電させなくても受変電設備の点検が可能です。
- 非常用発電機は、120時間(5日分)以上の燃料を確保します。



(3) 上下水道 途絶時のストックの充実

- 緊急遮断弁を設置した耐震性の高い鋼板製一体型受水槽により、一定期間分(4日間以上)の飲料水やトイレ洗浄水を確保します。
- 排水は緊急時用汚水貯留槽により対応します。

応援車両は北側の駐車場を利用
出動出入口と明確に分離

大規模災害時の休憩エリアとして
3階 大会議室を利用
災害対策エリアと階を分離

災害対策エリアを2階に集約
移動間仕切りで一体利用が可能

消防隊活動エリアは1階に集約
迅速な出動・救助活動が可能

物資の搬入には車寄せを活用

大規模災害時

迅速な出動・救助

応援隊は北側駐車場からフラットに災害対策エリアにアクセス

自家給油設備を計画、災害時でも防災活動が継続可能

訓練塔シャワー室を応援隊用のシャワー室として利用

雨水を利用した防火水槽の設置

物資置き場として機能

応援隊受け入れ

災害、救急・救助活動に利用できるヘリポートを計画

緊急消防援助隊、自衛隊、警察のヘリ受援を想定

地域の防災活動の拠点として機能

ヘリポートと消防活動エリアを同一レベルに設定

スムーズな連携が可能

